

Eat Well, Live Well.



# 味の素株式会社（2802） 2021年3月期第3四半期実績および 業績予想の修正

常務執行役員  
中野 哲也

2021年1月29日



## I -1. 2021年3月期 : 第3四半期累計サマリー

## FY20 第3四半期累計 (4-12月期) 業績サマリー

売上高 : 7,949億円 (対前年実績 96.7%、除く為替影響 99.1%)  
 事業利益: 999億円 (対前年実績 119.9%、除く為替影響 126.2%)

1. 売上高：対前年**減収**

- ・化成品を除く、ほぼすべての事業がCOVID-19影響を受けたことで、減収。

2. 事業利益：対前年**大幅増益**

- ・ソリューション&イングリディエントおよびアミノ酸の減益あるも、調味料、動物栄養、化成品、栄養・加工食品、冷凍食品等で増益となり、また前年のPH社における商標権の減損損失計上 (▲38億円) の反動影響もあり、大幅増益。

3. 親会社の所有者に帰属する当期利益：対前年**大幅増益**

- ・事業利益の増加に加え、前年の減損損失計上の反動で、その他の営業費用が減少。

(単位：億円)	3Q-FY20 累計実績 (A)	3Q-FY19 累計実績 (B)	差額 (A) - (B)	前年比 (A) / (B)
売上高	7,949	8,224	▲274	96.7%
事業利益	999	833	166	119.9%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	626	231	395	271.1%



## I -2. 2021年3月期 : 第3四半期サマリー

## FY20 第3四半期（10－12月期）業績サマリー

売上高 : 2,835億円（対前年実績 97.7%、除く為替影響 100.5%）

事業利益: 380億円（対前年実績 106.5%、除く為替影響 111.1%）

## 1. 売上高：減収

- ・ヘルスケア等で増収も、調味料・食品、冷凍食品等で減収となり、全体で減収。

## 2. 事業利益：増益（増益額：23億円）

- ・製品ミックス改善効果や原価低減、物流費の減少等で増益。

（事業利益対前年増減内訳-概算）

項目	増減（億円）			3Qに影響した内容
	1Q	2Q	3Q	
売上減による売上総利益（GP）減	▲ 60	▲ 20	▲ 25	－
GP率向上によるGP額増	70	20	30	製品ミックス改善効果や、加工用うま味調味料の原価低減効果等により、GP率向上。
販管費減	50	40	20	物流費等の費用減。
持分法による損益	0	40	0	－

## 【赤字箇所修正】

### FY20業績への影響（サマリー）

現時点で新型コロナウイルス感染症の終息時期は見通せず経済の先行きが不透明な中、以下の前提で業績見通しを修正しております。

1. 当社グループが事業展開をしている各国において、第2四半期までに非常事態宣言やロックダウン等が解除されるが、同期間の経済活動等に大きな影響を受ける。
2. 北米・南米、欧州、日本、東南アジアの一部の国では同感染症が収束せず、継続的に影響を受ける。



# I-4. 2021年3月期 : 業績予想に反映したCOVID-19影響

## FY20 COVID-19業績影響 (修正)

売上高 : ▲約660億円 (対FY19実績 ▲約6%)

参考 (11月修正) : ▲ 約675億円 (対FY19実績 ▲約6%)

事業利益: ▲約 11億円 (対FY19実績 ▲約1%)

参考 (11月修正) : ▲ 約65億円 (対FY19実績 ▲約7%)

## FY20 業績予想に反映した要素 (更新) ※不確定要素は業績予想に織り込んでおりません。

<1月以降に想定される影響>

(新規) : 新規の内容 (継続) : 3Qより継続する内容

(○) : プラス要因 (▲) : マイナス要因

(事業関連) (継続) 1.COVID-19が収束を見せず、家庭用製品 (調・食、冷食) における巣ごもり需要増と外出制限による外食向け製品の需要減が進んでいる。  
店頭販促活動などは引き続き制限 (○▲)

(継続) 2.医薬用アミノ酸は、輸液需要が引き続き堅調 (○)

(継続) 3.バイオファーマサービスにおける顧客の開発計画遅延 (▲)

(継続) 4.スポーツイベントや健康診断の縮小・中止に伴う市場縮小の影響 (▲)

(継続) 5.国・地域間の移動制限による観光客需要減少 (▲)

(継続) 6.米中貿易摩擦の電子材料事業への影響は現時点では限定的 (○)

(構造強化) (継続) 1.海外の事業縮小・売却プロセスは再開後、進展中 (○)

(不確定要素) (新規) 1. COVID-19感染動向により家庭用製品 (リテール向け製品) 上振れの可能性 (○)

(新規) 2.当社の製品在庫状況により販売費が進捗しない可能性 (○▲)

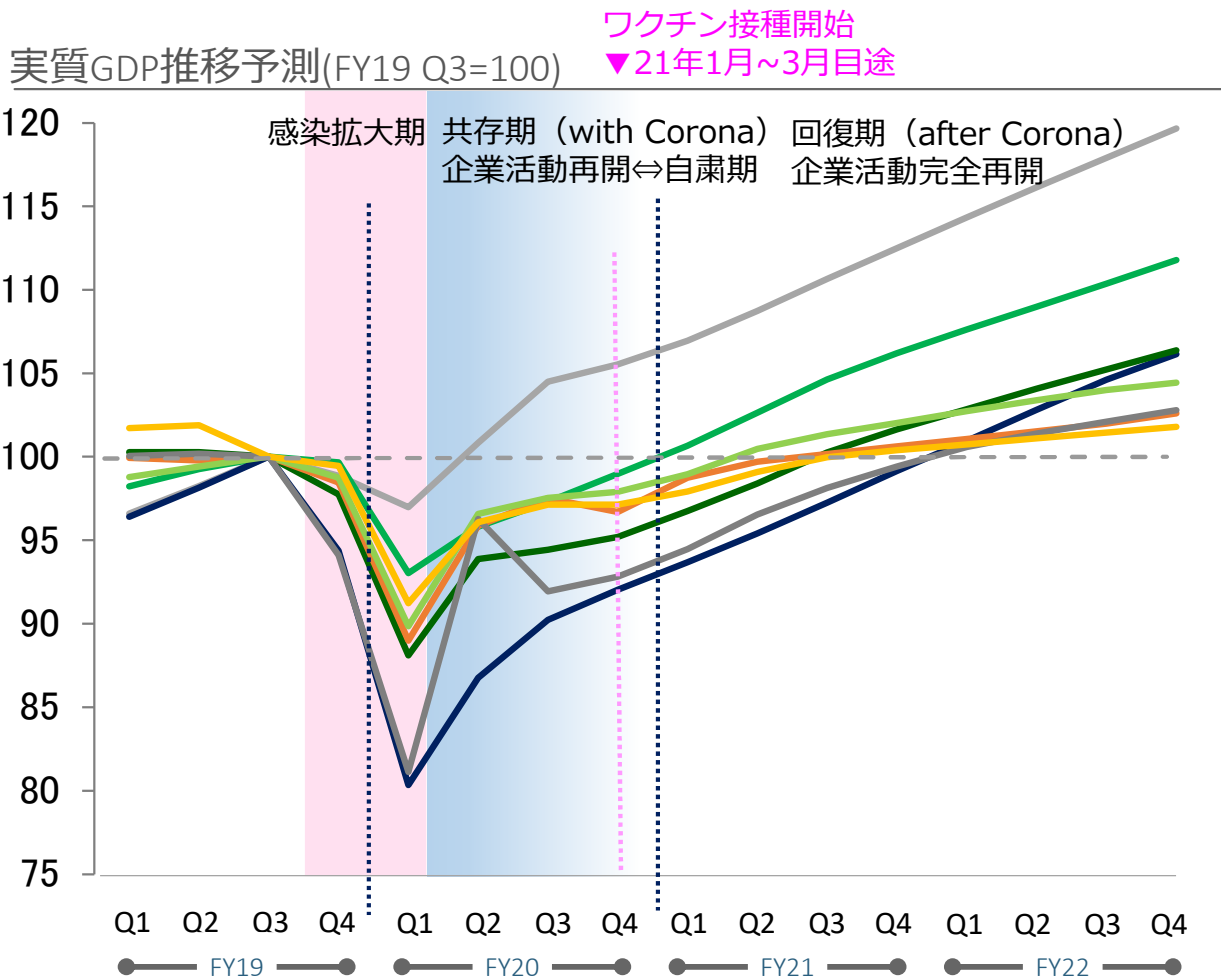
(新規) 3.サプライチェーン混乱による原料調達リスクや製品出荷遅延リスク (▲)



# I -5. 2021年3月期 : COVID-19各国経済への影響見通し

AJINOMOTO.

## 主要各国における実質GDPの推移予想 (更新)



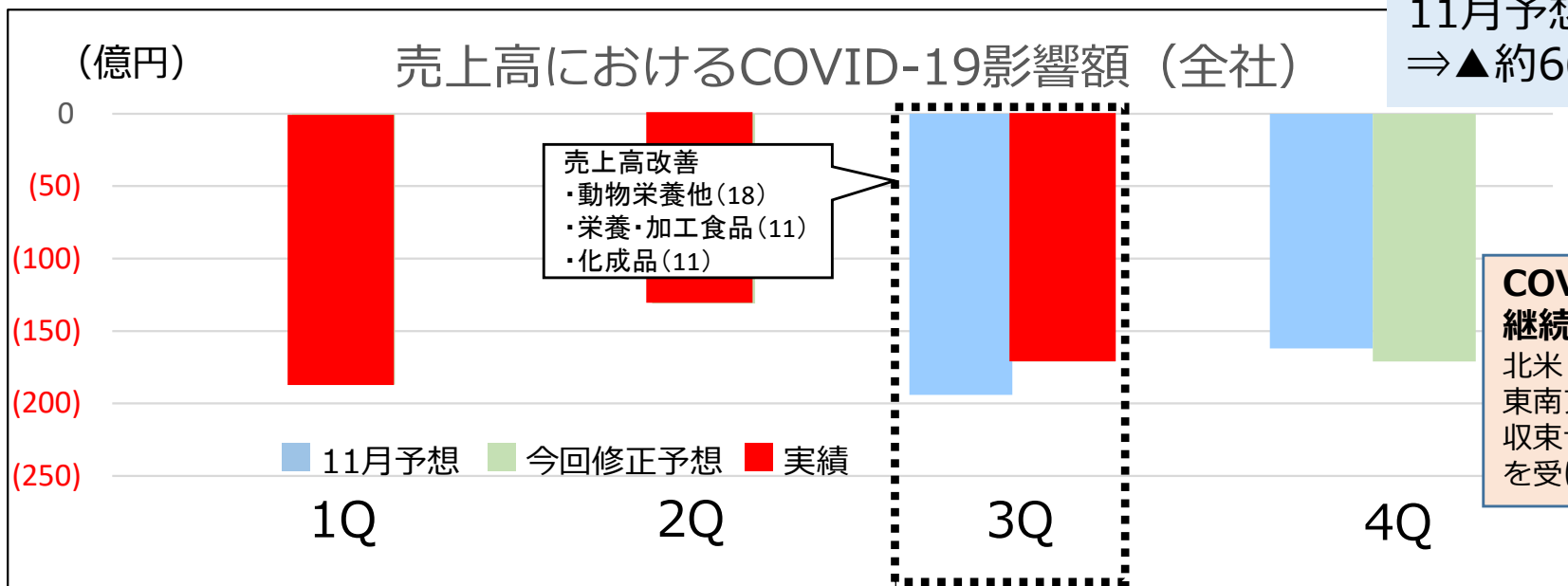
FY20のGDP成長率予測<sup>1</sup>

	11月時点 <sup>2</sup>	最新	差分
日本	▲5.9%	▲5.3%	+0.6
アメリカ	▲3.8%	▲3.8%	±0.0
タイ	▲6.8%	▲6.7%	+0.1
インドネシア	▲3.6%	▲3.0%	+0.6
フィリピン	▲8.6%	▲10.2%	▲1.6
ベトナム	3.3%	3.6%	+0.3
ブラジル	▲4.3%	▲4.8%	▲0.5
フランス	▲7.2%	▲8.2%	▲1.0

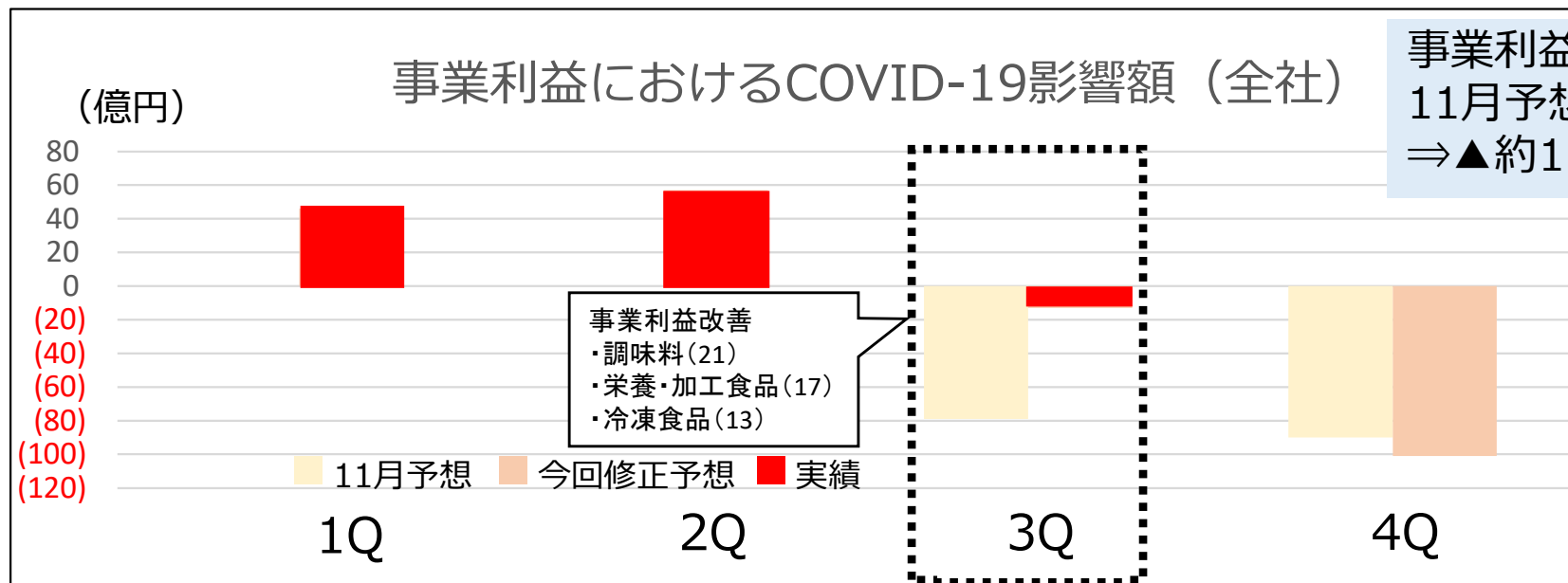
1. 四半期ベースのGDP予測に基づき4月~翌3月を年度として集計し、FY20とFY19を比較して算出  
 2. 11/6付決算説明資料における各国GDP予測数値に基づく成長率  
 Note: ベトナムを除き季節調整済み数値に基づき算出  
 Source: Oxford Economics

# I -6. 2021年3月期 : COVID-19の業績予想への影響

売上高年間影響額  
11月予想 ▲約675億円  
⇒▲約660億円に修正



**COVID-19が収束せず  
継続的な影響を予想**  
北米・南米、欧州、日本、  
東南アジアの一部の国で  
収束せず、継続的に影響  
を受ける。



事業利益年間影響額  
11月予想 ▲約65億円  
⇒▲約11億円に修正



# I -7. 2021年3月期 : 業績予想 (修正)

1. 売上高：対前年**減収**（3QまでのCOVID-19影響差異に加え、一部事業の状況を反映し、**上方修正**）
  - ・ヘルスケア等で増収も、COVID-19影響で、調味料・食品、冷凍食品のセグメントで減収となり、全体で減収。
  - ・各国感染状況を踏まえつつ、柔軟に販売施策を追加することで、減収幅を最小化していく。
2. 事業利益：対前年**増益**（3QまでのCOVID-19影響差異に加え、一部事業の状況を反映し、**上方修正**）
  - ・COVID-19影響あるも、化成品、動物栄養、栄養・加工食品、冷凍食品等が増益となり、全体で増益。
  - ・適切なマーケティング投資と全社コスト削減努力を継続し、業績予想（修正）の達成を目指す。
3. 親会社の所有者に帰属する当期利益：対前年**増益**
  - ・その他の営業費用が減少。

(単位：億円)	FY20 1月 修正予想 (A)	FY20 11月 修正予想 (B)	差額 (A) - (B)	FY19 実績 (C)	差額 (A) - (C)	前年比 (A) / (C)		FY20 1月修正予想	FY20 11月修正予想	FY19 実績
売上高	10,750	10,660	90	11,000	▲250	97.7%	売上高事業利益率	10.2%	9.4%	9.0%
事業利益	1,100	1,000	100	992	107	110.8%	ROE	7.8%	6.6%	3.3%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	430	360	70	188	241	228.3%	ROIC	5.3%	4.6%	3.0%
							ROA（事業利益 ベース）	8.2%	7.5%	7.2%
							EPS	78.42円	65.65円	34.37円





## I -8. 2021年3月期 : 業績予想 (修正)

通期売上高 : 10,750億円 (対前年実績 97.7% ▲250億円、除く為替影響 100.0%)

通期事業利益: 1,100億円 (対前年実績 110.8% +107億円、除く為替影響 116.9%)

(参考) 4Q売上高 : 2,800億円 (対前年実績 100.9% +24億円、除く為替影響 102.7%)

4Q事業利益: 100億円 (対前年実績 63.2% ▲58億円、除く為替影響 67.7%)

(事業利益対前年増減内訳-概算)

(単位: 億円)

	1Q-FY20	2Q-FY20	3Q-FY20	4Q-FY20	FY-20通期	(参考) 4Q-FY20に影響する内容
売上増減によるGP増減	▲ 60	▲ 20	▲ 25	10	▲ 95	
GP率変動によるGP額変動	70	20	30	▲ 5	115	
販管費減	50	40	20	▲ 90	20	食品事業を中心に新製品開発費用や、マーケティング費用等の増加を想定。
持分法による損益	0	40	0	30	70	前年4Qの持分法適用会社における損益悪化の反動影響。
計	60	80	25	▲ 55	110	事業利益に影響する為替影響は、▲7億円を想定。



## I -9. 2021年3月期 : 各段階利益 (修正)

COVID-19影響あるも、11月予想から改善し、事業利益増益を予想。  
構造改革費用は前倒しで発生の見通し。当期利益は増益を予想。

(単位：億円、▲は損サイド。)	FY20 修正予想 (A)	FY19 実績 (B)	前年差 (A)-(B)	概要
売上高	10,750	11,000	▲ 250	
事業利益	1,100	992	107	
その他の営業収益/営業費用net計	▲ 294	▲ 504	210	
減損損失		▲ 349	349	
その他	▲ 294	▲ 155	▲ 139	構造改革費用を計上 (▲約230億円)
営業利益	805	487	318	
金融収益/金融費用net計	▲ 11	0	▲ 11	
税引前当期利益	794	487	306	
法人所得税	▲ 293	▲ 203	▲ 89	税率：FY20修正予想 37%
当期利益 (含む非継続事業)	500	289	210	
親会社の所有者に帰属する当期利益	430	188	241	
非支配持分に帰属する当期利益	70	101	▲ 30	

Eat Well, Live Well.



## 参考資料

別添. 2021年3月期 第3四半期決算概要

2021年3月期 セグメント別修正業績予想

\*本資料における事業利益（連結ベース）：売上高－売上原価－販売費・研究開発費及び一般管理費＋持分法による損益

# 2021年3月期 : 為替前提および為替感度

## <為替前提：対円>

	FY20 予想（修正）	FY20				20-25 中計
		4Q	3Q	2Q	1Q	
USD	105.00		104.49	106.23	107.63	107.00
EUR	125.00		124.61	124.08	118.59	123.00
THB	3.39		3.41	3.39	3.37	3.42
BRL	20.19		19.39	19.74	20.06	28.16

## <為替感度>

### 為替レート（対JPY）

	FY20予想	事業利益への感度（換算時）
USD	105.00	±1円 → 約1億円
EUR	125.00	±1円 → 約0.5億円
THB	3.39	±0.01円 → 約1億円
BRL	20.19	±1円 → 約3億円

### 貿易為替影響（事業利益への感度）

1円安 vs USD → 約1億円  
 0.1EUR安 vs USD → + 約0億円  
 1THB安 vs USD → + 約4億円  
 0.1BRL安 vs USD → + 約3億円

**Eat Well, Live Well.**



- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には監査を受けていない概算値を含むため、数値が変更になる可能性があります。
- 本資料の金額は、切り捨てで表示しております。